

LXXXVI

南に伊豫が嶺見せて燧洋桃色の海
は君を呑みけむ

LXXXVII

締きだみ吉備が鼻より敷き設せけば
落つとも潮は騒がじものを

三
第
三

三^きりさのび七寸とのびて五さかの髪にか
へらば人のつかまむ
ななたりの女やくしやに弄^{あそ}ばれてまた懲
りすまに君を見しかな

LXXXVIII

忘れめや火の矢火の雨ふると見て
夢にして悔いし涙それさへ

LXXXIX

羨まし弓削ゆげの小島の白水あ郎ま一人海
に入り行く君を見にけり

XC

猿澤の池の玉藻やは君が爲し入毛
のごとも脱ちて流れし

嫁入を人間ひとにはせじと曉あきの海に投なげしやひするの挿頭かざし

海が見し堆鴉のもとごり海が見し
舞鸞の鬢は吾思妻

わが見し日肌にまごひし樺色のは
たぎの色も朽ちけむか潮に

XCIV

絞れごも絞れごも干ぬ髪に枕して
のがれ來し海の鳴るをきくらむ

IIIIX

大なる海もはるかに
のちを越るは海を越るは
五月三日の事
新宮の事

XCV

よしや今は君をかへせる賂まひなれば
翡翠の挿頭かざし海にやるとも

XCVI

ダ
ア
リ
ヤ
の
咲
き
し
月
こ
そ
嬉
し
け
れ
海
の
少
女
の
か
へ
り
來
し
月

XCVII

夏なつの日は靈くしほなるかな空にもゆる炎ほのほ
の中にわれ等を生かす

月
暈

XCVIII

長^{なが}瀬^せの小戸に水堰く圓^{つぼ}石^{いし}其つぶら
石わが夢に鳴る

XCIX

月暈^{かさ}も沼の光も白き夜はみそかに
開く睡蓮の花

XCIX

月暈も沼の光も白き夜はみそかに
開く睡蓮の花

0

命かな 月さきらえをとい 海行く夜沼隈くまの浦に
こほろぎを聞く

大正四年十二月十二日印刷
大正四年十二月十五日發行

定價金六拾錢

著作兼發行人

茨城縣真壁郡大賣村大字横根七番地

横 瀨 虎 壽

印刷

東京市小石川區香羽町三丁目三番地

國 仙 和 吉

印刷

東京市小石川區香羽町三丁目三番地

玄 光 堂 印刷所

發行所

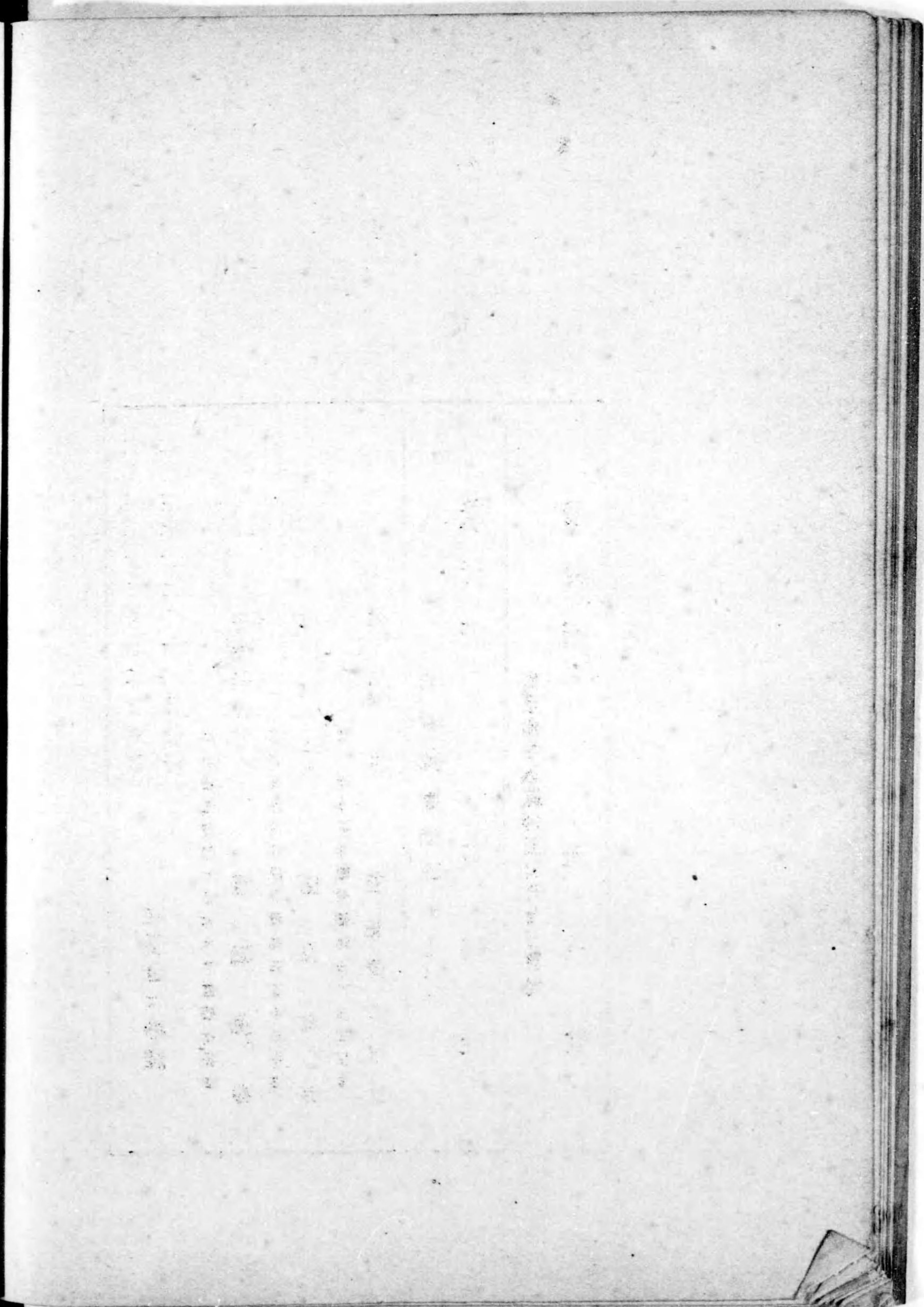
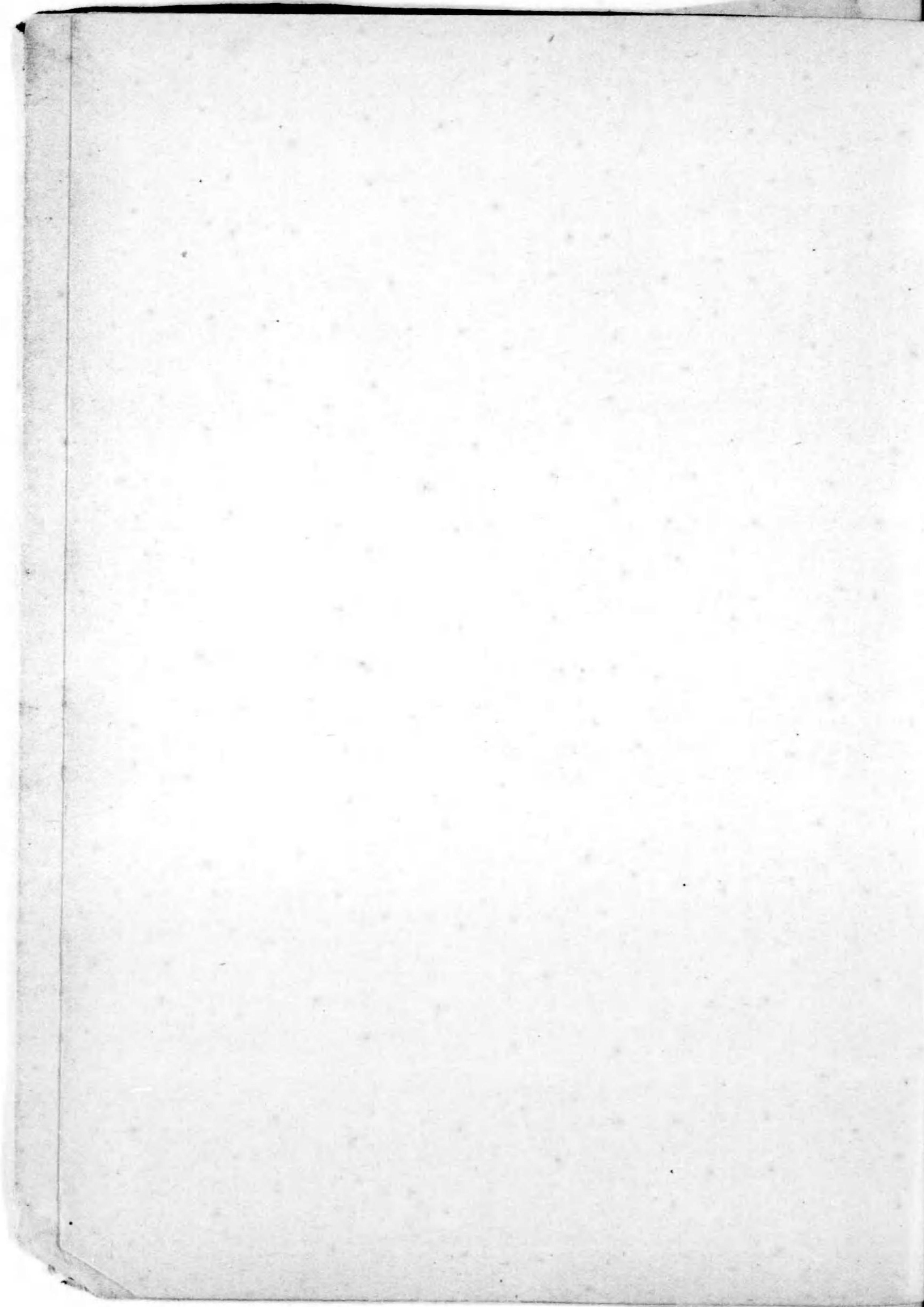
茨城縣真壁郡大賣村

石 蒜 社

發賣所

東京市牛込區西五軒町卅五番地

天 弦 堂





終